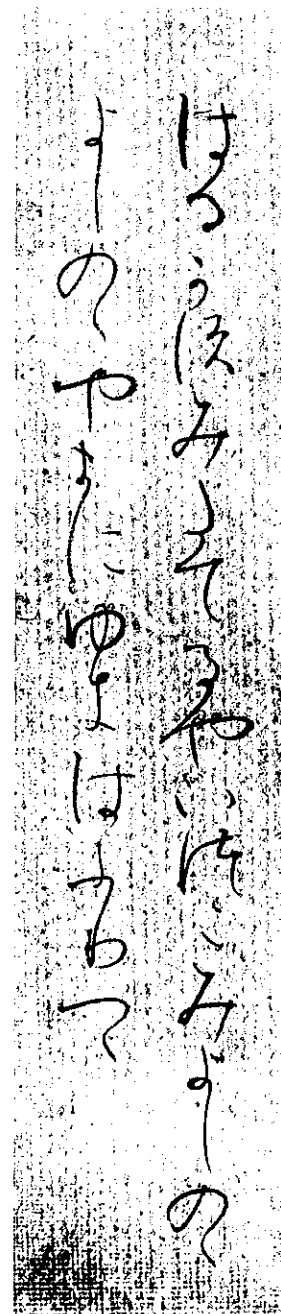


粘葉本和漢朗詠集

はるがすみ たてるやいづこ みよしのゝ よしのゝやまに ゆきはふりつゝ



国語

▲全 学 部▼

(六〇分)

必須問題

全員が解答すること。

第一問 次の文章を読み、後の問一～問七に答えよ。なお、問題文には設問の都合で省略した箇所がある。(解答はすべてマークシートに記入すること。)

社会秩序という意味構造の中に行為を位置づけ、辻褄^{つじつま}合わせする、これが責任と呼ばれる社会慣習の内容だ。因果律の観点からすれば、犯人の行為が同じなのに結果に応じて罪や罰が変わるのは①明らかな論理誤謬^{ごびやう}だが、同じ行為でも事件の結果が異なると責任や罰が変化する理由がここにある。

決定論と自由そして責任の関係は哲学者が詳細に検討してきた。議論を整理しておくと、自由と決定論は根本的に両立しないという立場と、両者は必ずしも矛盾しないという立場に大別される。前者の非両立論はさらに二つに分か

れ、決定論をしりぞけて自由や責任を保持する立場と、世界は決定論的因果律によって縛られるから自由は存在せず、したがって責任も根拠づけられないという立場がある。他方、両立論も「階層説」など様々な解決が模索されている。しかしこれらと異なる角度から、実証科学の決定論的アプローチと自由・責任の概念がそもそも矛盾しないことを示したい。

まず自由に関する誤解を解こう。決定論的因果律に縛られない行為とは何か。定義からして、そのような行為は原因なしに生ずる行為だ。原因があれば、結果との間に因果関係を想定しないわけにいかない。では原因なしに生ずる行為とは何か。それは偶然発生する行為、理由なく起きる行為に他ならない。例えば勝手に手足が動き出す。不意に殺意を^①モヨオし、近くににいる人の首を絞める。だが、このような状況は我々が抱く自由の感覚とかけ離れており、自由どころか逆に身体や精神の自由が利かない状態を意味する。それにもし私の行為が非決定論的に生ずるならば、それは私の行為と呼ぶことさえできない。単なる出来事であり、行為と性質を異にする自然現象だ。

自由な判断や行為と呼ばれるものは、人格の奥底から出てきたと感知される判断や行為だ。つまり各個人の属性によって強く規定されている。ところで人格や個性と呼ばれる各人の属性は遺伝や家庭教育などにより形成される。したがって決定論と自由は矛盾するどころか、自由と感じられる判断や行為ほど実は決定論的現象である。黒田亘『行為と規範』は言う。

「自由な行為」とは、多年の経験を通じて形成された人格の主体の個性をメイ^②リヨウに表現する行為、自我の表面に属するのではなくその深層から発する行為である。従来の自由論が説いてきたのとは逆に、その行為者の、

その状況における行為であるかぎり反対の行為の可能性を考える余地のないような行為、それ以外ではありえないほどに人格的に決定された行為、それこそが「自由」のあかしとなる行為ではないか。(強調原著者)

量子力学的確率論に依拠して自由を非決定論的に解釈する試みがある。素粒子の軌道は確率的にしか予測できない。同様に人間の行為も、多くの人々を観察すれば、社会・心理条件と犯罪率の関係を推測できるかもしれない。しかし、どんなに詳しいデータを集めても、^③ある特定の個人が犯罪に及ぶかどうかはわからない。だから人間行動は決定論に従わず、責任を負う必要がある。こういう主張である。

だが、この類推は的外れだ。素粒子は自分の軌道を主体的に変更できない。したがって、人間は自らの行為を制御できるかという^④カンジンな点の考察に、この類推は役立たない。このように、行為の生成プロセスに偶然の介入を認めても何の助けにもならない。

世界は決定論的に理解すべきだと主張するのではない。自由意志が原因で行為が生ずるから責任を負うという枠組みで考えるから、行為は決定論的に生ずるのかという問いが出てくる。責任はどのような発想と次元を異にする。自然因果律で意志の源を求める限り、どんな答えを用意しても意志や行為の自由は導けない。問いの立て方自体が誤っているからだ。自由と決定論が矛盾すると考える背景には、^A規則あるいは法という表現が持つ二つの意味の混同がある。法律や道徳という規則は我々の欲望を制限する。人間が抱く欲望の間に対立が生じず、誰もが気の赴くままに行動してよければ、そもそも規則は必要ない。そして規則があれば服従する者も破る者もいる。^⑤嫌々ながら規則に服するものもある。つまり規則は強制力として機能する。ところが自然科学において規則や法則に言及する場合は違う事態を意味

する。例えば万有引力の法則は一定の軌道にそって物体が運動すべきだという命令ではなく、物体が実際にどのような運動をするかの端的な記述だ。地球が本当は他の軌道を通りたいのに、ケプラーの法則^(注3)があるため仕方なしに規則が定めた通りに公転するわけではない。ここでの規則や法則は強制を意味しない。自然科学における法則の否定は単にその法則が存在しない、つまりその法則が記述する因果関係の誤りを⁽⁴⁾ガーンイする。それに対して日常生活で我々が理解する自由は社会的強制力の欠如あるいは反抗可能性を意味し、行動が因果律に縛られるかどうかとは別の次元に⁽⁴⁾属する事態である。

結局、自由とは因果律に縛られない状態ではなく、自分の望む通りに行動できる感覚であり、強制力を感じないという意味に他ならない。強制されていると主観的に感じるか否かが自由と不自由とを分つ基準であり、他の要因によって行為が決定されるかどうかという客観的事実は、自由かどうかの判断とは別の問題だ。我々は常に外界から影響を受けながら判断し行動する。しかし条件の違いによって、自分で決めたと感じる場合もあれば、強制されたと感じる場合もある。主観的感覚が自由という言葉の内容なのである。

責任の正体に迫るためには、自由に関する我々の常識をまず改めなければならない。近代的道徳観や刑法理念においては、自由意志の下になされた行為だから責任を負うと考えられているが、この出発点にすでに誤りがある。実は自由と責任の関係は論理が逆立ちしている。自由だから責任が発生するのではない。逆に我々は責任者を見つけなければならぬから、つまり事件のけじめをつける必要があるから行為者を自由だと社会が宣言するのである。自由は責任のための必要条件ではなく逆に、Xに他ならない。

ちなみに「原因」のギリシア語は *aitia* (aitia, アイタイア) だが、これはもともと「罪」を意味していた。我々が

今日考えるように因果律を基に責任概念が派生したのではなく、事実はその逆で、責任や罰の方がより基礎的な観念だった。客観的因果律など知らないうちから人間は責任や罰とともに生きてきた。「人間世界から独立した自然界」という認識が生まれて科学が発達し、それにともなう自然界を律する因果律という見方が、責任を問うという、より根本的な問題意識から徐々に切り離されていった。

行為が決定論的に生ずるかどうかは責任と本来関係ない。ギリシア時代においてもキリスト教世界でも責任は決定論問題と結びつかなかった。近代に入ってから初めて起きた議論だ。

社会規範に道徳の根拠を求めるアリストテレス^(注1)に対して近代思想は袂を分かち、キリスト教哲学と同じように、各文化・時代に固有の偶有的条件に左右されない普遍的根拠によって道徳を基礎づけようと試みる。だが、神という超越的権威に⁽⁵⁾もはや依拠できない近代人はここで Y。社会あるいは神という〈外部〉に世界秩序の根拠を投影しなければ根拠は個人に内在化されざるをえない。そのため前近代には大きな問題にならなかった、個人の属性がどのように形成されるかという点が責任の考察にとって切実になる。殺人を犯す者がいる。なぜ彼は罰せられるのか。社会が罰を要請するからだ。アリストテレスは答える。神がそれを欲するからだ。キリスト者は言う。しかし近代個人主義に生きる我々はそのような答えでは満足できない。責任の根拠が個人に内在化される世界において私の行為の責任を負うためには、私自身が行為の原因でなければならぬ。だから決定論と自由意志の問題をめぐって近代以降、哲学者は膨大な議論を費やしてきたのだ。

(小坂井敏晶『増補 責任という虚構』による)

(注)

- 1 階層説——アメリカの心理学者マズロー（一九〇八―一九七〇）が提唱したもので、人間の欲求は一番レベルの低い生理的欲求に始まり、一つが満たされるとその上へと進みながら、最後は自己実現の欲求に至ると説く。
- 2 黒田亘——一九二八―一九八九。日本の哲学者。
- 3 ケプラーの法則——ドイツの天文学者ケプラー（一五七二―一六三〇）が発見した、惑星の軌道に関する法則。
- 4 アリストテレス——前三八四―前三二二。古代ギリシアの哲学者。

問一 本文中の傍線部①～④に相当する漢字を含むものを、次の各群のアイオの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号をマークせよ。（解答番号は①＝1、②＝2、③＝3、④＝4）

①モヨオシ

ア 中世に築かれたジョウサイ。

イ 送金をサイソクされる。

ウ 多くのフサイを抱える。

エ カサイリユウが発生する。

オ 公文書にキサイがある。

②メイリヨウ

ア ノウリヨウの花火大会。

イ 山のリヨウセンが見える。
 ウ 公金をオウリヨウする。
 エ 予防はチリヨウに勝る。
 オ 一目リヨウゼンである。

③カンジン

ア カンゲンをもつて欺く。
 イ 東京と大阪をオウカンする。
 ウ 絵画をカンシヨウする。
 エ カンタン相照らす仲。
 オ モツカンに書かれた文字。

④カナイ

ア 多くの問題をホウカンする。
 イ 世界の平和をキカンする。
 ウ ガンジョウな建物に避難する。
 エ 上司のガンシヨクをうかがう。
 オ 祖父がアイガンした置物。

問二 本文中の傍線部①～⑤の中で、品詞が同じものはどれとどれか。最も適当なものを次のア～コの中から一つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号は[5])

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| ア | ①と② | イ | ①と③ | ウ | ①と④ | エ | ①と⑤ | オ | ②と③ |
| カ | ②と④ | キ | ②と⑤ | ク | ③と④ | ケ | ③と⑤ | コ | ④と⑤ |

問三 本文中の傍線部 A「規則あるいは法という表現が持つ二つの意味」とあるが、それぞれどのようなものか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号は[6])

- ア 人間社会における規則は強制力として機能しているが、自然科学における規則は因果関係を示したもので強制を意味しないということ。
- イ もともと法律や道徳という規則は欲望を制限するものであるが、日常世界においては強制力が欠如し反抗可能性も意味すること。
- ウ 人間社会における規則は服従する者も破る者もいるが、自然科学における法則は全ての物体が従う普遍性のあるものだということ。
- エ 自然科学における規則は因果律に縛られているが、日常世界における規則は自由という主観的感覚に属するものであるということ。

オ 人間同士の欲望が対立しなければ規則は必要なくなるが、自然科学における規則は因果関係の誤りを表すため否定できないということ。

問四 本文中の空欄 X にあてはまる事柄は何か。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号は[7])

- ア 自由意志と責任を媒介させるため、便宜上用いられる道徳的観念
- イ 刑罰と対置されるべき、決定論的因果律とは矛盾する普遍的原理
- ウ 個人の人格や個性という属性によって強く規定される決定論的現象
- エ 因果論で責任概念を定立する結果、論理的に要請される社会的虚構
- オ 量子力学的確率論に依拠する、予測不能で非決定論的な心理的条件

問五 本文中の空欄 Y にあてはまる表現は何か。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号は[8])

- ア 自己矛盾に気づく
- イ 感覚的に行動する

- ウ 制度等を閑視する
- エ 原点回帰をはかる
- オ 袋小路に迷い込む

問六 本文中の二重傍線部「決定論と自由そして責任の関係は哲学者が詳細に検討してきた」について、次の設問(一)(二)に答えよ。

(一)筆者は、近代において「決定論と自由そして責任の関係」を「哲学者が詳細に検討してきた」のはなぜだと考えているか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から二つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号は 9)

ア 決定論は、近代における実証科学の発達によって生まれた因果律の考え方をもとにしており、社会慣習から生まれる責任の概念や自由意志と両立するものだから。

イ 近代に入って因果律という考え方が生まれる以前、古代ギリシア世界やキリスト教世界において責任は基礎的な観念であり、自由や決定論の問題と結びつかなかったから。

ウ 近代以降、社会規範や神ではなく個人の内部に責任の根拠を求めるようになり、個人の自由意志がどのような要因によって形成されるかが重要視されるようになったから。

エ 普遍的根拠によって責任を基礎づけようとする近代思想が行き詰まり、人間の自由意志が外因に規定され

るという古代からの哲学的な見方が求められるようになったから。

オ 神の摂理を価値判断とするギリシア哲学や、社会的共同体の規範を重視するキリスト教哲学では、個人の自由意志が外因に規定されるかどうか問題視されなかったから。

(二)筆者は「決定論と自由」の関係についてどのように考えているか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号は 10)

ア 自由とは、他の要因によって行為が決定されるという決定論的因果律に縛られない状態をいうのではなく、強制力を感じないという感覚にすぎない。自由かどうかの判断と決定論は根本が異なる問題であり、同時には論じられないものである。

イ 確率的にしか動きを予測できない素粒子と異なり、人間は自分の動きを主体的に変更できる。そのため、人間の自由意志は全ての現象を外部分からの要因との関係で捉える決定論的因果律とは相容れない性質をもち、決定論と自由は矛盾する。

ウ 近代以前の人間の自由は、強制されていないという主観的感覚であり、外部からの要因に依存する決定論とは相容れないものだった。しかし、近代において自由と因果律的決定論は、責任の概念を媒介として結びつけられるようになった。

エ 自由意志の内実の主観的な感覚で、決定論的因果律に縛られない行為と捉えるのは誤りである。自由とい

う観念に対する常識を改め、自由意志があるから責任が発生するという因果律を捉えることで、責任の所在を明らかにすることができる。

オ 自由とは自分の望む通りに行動できるという主観的感覚であるが、そのような感覚は、遺伝や家庭教育などの外的要因に依拠する個人の属性によって規定されており、決定論的である。したがって決定論と自由は両立するものである。

問七 本文の内容に合致するものはどれか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号は 11)

- ア 決定論と自由の関係について近代哲学は検討し続けてきたが、責任を社会の基本においたギリシア哲学に、議論の根本的な解決をもたらす役割が期待される。
- イ 決定論的因果律に縛られない行為とは身体や精神の自由が利かない状態であると言わざるをえず、自由意志と決定論的アプローチは別の次元に属する観念である。
- ウ 近代哲学の発展によって、責任と呼ばれる基礎的な社会観念が自由意志を必要としている点が明らかになり、自由に関する常識が変化することになった。
- エ 近代以降の道徳観や刑法理念においては、自由意志が原因で行為が生ずるから責任を負うものとみなされているが、その考えの枠組み自体に問題がある。
- オ 責任と決定論が結びつけられるようになったのは近代においてであるが、その背景には量子力学的確率論

に依拠した犯罪の社会心理学的考察があった。

選択問題

文学部文学科の受験者は、第二問(近代以降の文章)と第三問(古文)のうち、いずれか一問を選択して解答すること。文学部文学科以外の受験者は、第二問を解答すること。

第二問 次の文章を読み、後の問一～問八に答えよ。なお、問題文には設問の都合で省略した箇所がある。(解答はすべてマークシートに記入すること。)

日本人は外国語に向かうとき、数多くの記号からなり複雑な体系をなす外国語をみて、^③キョクドに緊張し、その裏返して日本語は自然に何の苦勞もなしに習得したと思いがちである。時には日本語の存在は空気のようなものであって、鼻をつままれたとき初めて空気存在を意識するのと同じように、外国へ行って日本語が通じなくなって初めて日本語を話していることを意識する。このような傾向は外国語の研究者の間にさえもみられ、日本語も、習得しようとしている言語と同じ一つの言語だという意識はしばしば欠落している。

そんなわけなので、日本語についてのいろいろな迷信がある。しかもそれを日本人が信じ、日本人がひろめている。A その一つは日本語は非常に難しい言語だという迷信で、もう一つは日本語は特殊な言語であるという迷信である。たまたま日本語を上手に話す外国人がいますと、非常に驚くか、あるいは難しいはずの日本語をこれほどまでに習得さ

れてがっかりするかのいずれかの反応を人は示すが、これは日本語は難しい言語だとアブリオリに決めてかかっているからに他ならない。そしてこれはさらに日本語は特殊な言語だと飛躍していくのである。

ところが実際には日本語はとりわけ難しい言語でもなければ、特殊な言語でもない。いろいろな言語に接してみると、日本語にあるもので外国語に例がないというようなことはなんにもない。ただ一つ非常に例が少ないのなら、漢字や仮名をまぜて使う文字体系、一つの漢字にいくつもの読み方のある表記法をあげることができよう。

① この文字体系は難しいので、この点だけなら日本語が難しいという主張に同意できる。

何しろ日本の漢字は二通りの読み方があって、いくらこれを外国人に説明しても分かってもらえないという主張には、英語にだって *go* (元来は *go* の略語) という語があって、これは *go* とも読まれますよといえはよい。もちろんこのような語は英語では例外的で数がごく限られているが、本来のラテン語を略したものを英語風に読むか、「すなわち」という意味をもとに英語読みにするかは、中国の発音をもとにした音と、漢字をその意味にあたる日本語で読んだ訓との区別とは対応する。

ところが、日本人は何としても日本語を特殊な言語としたいらしい。

② ささやかな英語の知識を得ると、英語がすべての外国語のテンプレートであると錯覚し、それと比べて日本語が違っていると、すぐ日本語は特殊だからというのである。もうすこし多くの言語を眺めさえすればこのような誤解はいとも簡単に解消でき、逆に英語の方がかなり珍しいことだってあることに気がつくはずである。例えば初歩の英文法でおなじみの進行形を持っている言語はそう多くない。

③ 英語で書かれた語学書には日本人にとって無用な「この言語には進行形がない」という記述に絶えずお目にかかることになる。また、時の一致などずいぶん持って回ったいい方というか、^B屋上屋を架す^Bというか珍しい表現法である。そもそも時間の関係を表現するだけなら ^X があれば十分で、言語によっては「昨日買います」、「明日買います」で間に合っているのであるから、動詞の時制を二重にコントロールするなど珍しいことである。

日本語を特殊語視しているうちはまだまだだが、④、外国語の知識から日本語に対して誤った判断を下すようになる。よく聞かれる例は、「日本語は主語をよく略す」という表現である。この「略する」といういい方はすでに主語がなければならぬことを前提にしている、主語があるのが当然という立場に立っている。世界の言語における文のあり方をみると、言語によっては主語・述語と揃うのが文のパターンの基本である言語もあれば、述語一つあれば十分な言語もある。「あなたは学校に行きますか」「はい、私は学校に行きます」が普通の文である言語と、「学校に行くの?」「うん、行くよ」で十分な言語があつて、^C後者は前者を略したものではない。日本語で「あなたは学校に行きますか」「はい、私は学校へ行きます」というのは正しい日本語で可能な文ではあるが、「あなたは」と「私は」が強調されている文で、「Do you go to school? Yes, I do」の訳ではない。英語で「Go to school? Yes, go」といえないのはもちろんである。これは英語がヨーロッパの多くの言語と同様に主語・述語と揃い、本来その二つの間に照合がみられる言語だからである(この照合は英語では衰えており、三人称単数現在の主語のとき、動詞に *s* がつくという形が残っているにすぎない)。

それに反してわが日本語はあくまでも述語だけの文が本来の姿で、少し前で見たとように人称代名詞が加わった形はそれで人称が示されるのではなく(人称は言語外状況から明らかである)、他ならぬあなたが行くのを強調していて、他ならぬ私が行くことを強調しているのである。

このように主語・述語が揃った文を両肢文、述語だけの文を単肢文^{たんしこん}という命名を河野六郎博士が^Cテイショウして

おられるが、これによれば英語は両肢文の言語、日本語は単肢文の言語である。

日本人が日本語を使う場合、それを空気の如く無意識で使っていたのが、外国語を習うことにより日本語も意識して使うようになるというのは、外国語習得のもたらす気づかれていないメリットである。(I) その結果日本語も意識された客体として理解され、言語一般への理解は④「タンセン高まつてくる」。(II)

多くの言語研究者は様々な外国語を研究したあと、その研究対象が母語に戻ってくる。(III) これは耳や目が衰えたりするという物理的な理由によることもあるが、一度自分の母語を客観的对象として捕えることができれば、自らがインフォーマントになれるわけであり、あらゆる言語の中で一番よく知っている言語だからである。(IV)

日本語をめぐる問題にはまだ限りなく面白いテーマが残っている。恐らく一番興味をひく魅力的なテーマは日本語とはどんな言語か、どのような構造をなしているのかというテーマであろう。(V) 日本語を見ると名詞は非常に平板で構造にかかりあうような要素は見あたらない。それに反して動詞は複雑で、「書く」という動詞から「書カセタガラナイ」というような形がごく当然の形として出てくる。これが用言複合体と命名される由来である。(VI)

(下野栄・「言語学 私のラブストーリー」による)

(注)

- 1 アブリオリ——経験によって考えてみなくても、もとからわかっていること。
- 2 Direct——ラテン語で「すなわち」を意味する表現
- 3 河野六郎——一九二〇—一九九八。日本の言語学者。
- 4 インフォーマント——言語・民俗調査などの資料・情報提供者。
- 5 用言複合体——「書カ・セ・タガラ・ナイ」のように複数の要素が次々と結びついた構造体。

問一 本文中の傍線部①～④に相当する漢字を含むものを、次の各群のA～オの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号をマークせよ。(解答番号は① 12、② 13、③ 14、④ 15)

① キヨクド

- A キヨクシヨ麻醉を施して手術した。
 イ ゴクジヨウの料理を味わった。
 ウ キヨクゲイのような離れ業だ。
 エ ホウギヨクの輝きがまぶしい。
 オ ヒヤクマンゴクの収穫高だ。

② テンケイ

- A すでにケイガイカしたルールだ。
 イ ケイチヨウに値する話だ。
 ウ もうクレガタの時間帯だ。
 エ 大衆をケイハツする。
 オ イカタにはめこむ。

③ テイショウ

- A 矛盾がロテイした。
 イ 業務をテイケイする。
 ウ 学術用語をテイギする。

エ 勤め人らしいフウデ^イだ。
オ その本はカイテイ^イバンが出た。

④ ダンゼン

ア ダン^イ違いの実力だ。
イ 寒いからダン^イを取ろう。
ウ そろそろダン^イを下そう。
エ ジュウダン^イの音が響いた。
オ ダン^イカイの世代の生まれだ。

問二 本文中の空欄 ① ② ③ ④ に入る語句は何か。その組み合わせとして最も適当なものを次のア～オ

の中から一つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号は 16)

- | | | | | |
|---|--------|--------|-------|---------|
| ア | ① なるほど | ② そして | ③ つまり | ④ 往々にして |
| イ | ① およそ | ② いつか | ③ すると | ④ ところが |
| ウ | ① たしかに | ② そこで | ③ 従って | ④ やがて |
| エ | ① ことさら | ② すなわち | ③ 常に | ④ わざわざ |
| オ | ① もちろん | ② だから | ③ しかし | ④ 直ちに |

問三 本文中の傍線部 A「その一つは日本語は非常に難しい言語だ」という迷信で、もう一つは日本語は特殊な言語であるという迷信である」とあるが、なぜ筆者はそれらを迷信だと言うのか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号は 17)

ア 日本語は、漢字仮名まじりの文字体系をはじめとして外国人には習得の難しい言語であるが、母語話者には空気のごとく意識せず使いこなせるから。

イ 日本語を多くの言語と対照してみた結果としての判断ではなく、せいぜい英語などの限られた言語との違いに基づいた思い込みにすぎないから。

ウ 「昨日買います」のような日本語の表現法は英語と異なるが、複数の言語を見渡してみるとむしろ英語の表現法のほうが珍しいものだから。

エ 日本語が特殊な言語だというのは根拠のない決めつけであり、文字や主語の面を別にすれば日本語には難しいと言える点など何もないから。

オ 国際化の進んだ現代では多くの外国人が日本語を流暢に話し、日本語が実は難しい言語ではなかったことを実証しているから。

問四 本文中の傍線部 B「屋上屋を架す」とは、どのような意味か。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号は 18)

- ア 緻密に組み立てようとする。
 イ わざわざ苦勞を買って出る。
 ウ 高々と積み上げようとする。
 エ 余計なことを重ねてする。
 オ 慎重を期して準備をする。

問五 本文中の空欄 に入る語句は何か。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号は)

- ア 動詞 イ 副詞 ウ 名詞 エ 過去形 オ 時制

問六 本文中の傍線部 C「後者は前者を略したものではない」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号は)

- ア 「学校に行くの?」という文は、略すことに慣れた日本人にとって省略文とは感じられないということ。
 イ 「あなたは学校に行きますか」という説明的で堅苦しい言い方を日本人はあまりしないということ。
 ウ 「うん、行くよ」という文は「学校に」を略したもので、主語は略されていないということ。

- エ 「学校に行くの?」という文は、それ自体で十分に完結した文であるということ。
 オ 「私は学校へ行きます」という文は主語が不自然に強調された文だということ。

問七 本文からは次の一文が省かれている。この文は、本文中の (I) ～ (VI) のうち、どの箇所へ入るか。最も適当なものを後のア～カの中から一つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号は)

そして母語の難しさを知って、そこからまた逆に外国語を学ぶときの慎重さを得るのである。

- ア (I) イ (II) ウ (III) エ (IV) オ (V) カ (VI)

問八 本文の内容に合致するものはどれか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号は)

- ア 日本語動詞の構造は、「食べさせられたがらなかった」のような長々とした形を楽々と作り出すほど複雑であり、そのことは日本語が高度に発達した言語であることを示唆している。
 イ 日本人は日本語をまるで空気のように意識せず使っているが、それも日本語の特殊性の一つであって、外国語を使う際には、発音の仕方や文の組み立て方や文字の綴り方などを意識せざるを得ない。

ウ 外国語を学ぶことで、その外国語が身につくばかりではなく、両肢文の言語と単肢文の言語の違いのような言語の多様なありさまに気づかされ、意識することなく使ってきた自身の母語が相対化される。

エ 日本語が特殊な言語であるという迷信は、外国語学者を例外として日本人の多くに広まっていて、その根拠としては漢字・ひらがな・カタカナといった多種の文字を混せて使う体系がしばしば挙げられる。

オ 英語を含めてヨーロッパの言語では基本的に主語が明示されるが、世界の言語を数多く観察するとこのような文法をもつ言語は少数派であり、日本語のように主語を必ずしも明示しない言語のほうが多い。

選択問題

文学部文学科の選択問題。文学部文学科以外の受験者は解答しないこと。

第三問 次の文章は、『讃岐典侍日記』の一節である。讃岐典侍は、堀河天皇に仕える典侍として出仕し、寵愛を受ける立場にもあった。堀河天皇の崩御後、堀河天皇の子で既に母女御を亡くしていた鳥羽天皇（本文中では「御前」が、わずか五歳で帝位につく。宮中を辞していた讃岐典侍であったが、堀河天皇の父で鳥羽天皇にとつては祖父にあたる白河法皇（本文中では「院」の命により、幼い鳥羽天皇に仕えることになった。宮中に戻った讃岐典侍の心中には、ことあるごとに堀河天皇との思い出がよみがえる。これを読んで、後の問一～問八に答えよ。なお、問題文には設問の都合で省略した箇所がある。（解答はすべてマークシートに記入すること。）

御帳の帷見るにも、まづ、おほせられしことも、思ひ出でらる。昔をしのぶいづれの時にか露かわく時あらんとおぼえて、かたしきの袖もぬれまさり、枕の下に釣りしばかり、よろづのことに目のみ立ちて、たがふことなくおぼゆるに、ただひと所の見えさせたまはぬと思ふぞ、かなしき。御前の臥させたまひたる御かたを見れば、^Aいはけなげにて^④大殿ごもりたるぞ、変はらせおはしまししとおぼゆる。

一昨年^⑤のころに、かやうにて夜昼御かたはらにさぶらひしに、御心地やませたまひたりしかども、院より、「^Bあなかしこ、よくつつしみて、夜の大殿を出でさせたまはで、しばし」と申させたまひしかば、つれづれのままに、よしなし物語、昔今のこと、語り聞かせたまひしをり、殿^⑥のあとのかたに寄りたてまつらせたまひしかば、そのままにてさぶらはんは、なめげに見苦しくおぼえしかば、起き上がりて退かんとせしを、見えまゐらせじと思ふなめりとおほして、「ただあれ。几帳作り出でん」とて、御膝を高くなして、陰に隠させたまへりし御心のありがたさ、今の心地す。いつのまに変わりはける世のけしきぞと、よろづの人たちのそのかみの人ならぬなかに、わればかりありし昔ながらの人、いかに結びおきける前の世の契りにかと、もののみ思ひつづけ^①られて、あはれしのびがたき心地す。明けぬれば、いつしかと起きて、人々、「めづらしきところ見ん」とあれど、具して歩かば、いかでもものみ思ひ出でられぬべければ、ただほれてゐるに、御前のおはしまして、「いざ、いざ。黒戸^⑦の道をおれが知らぬに、教へよ」とおほせられて、引き立てさせたまふ。

御溝水の流れに並み立てるいろいろの花ども、いとめでたきなにも、萩の色こき、咲きみだれて、朝の露玉をつらぬき、夕べの風なびくけしき、ことに見ゆ。これを見るにつけても、^⑥御覧せましかば、いかにめでさせたまはましと思ふに、

萩の戸におもがはりせぬ花見ても昔をしのぶ袖ぞつゆけき^(注5)

かくて、九月になりぬ。九日、御節句^(注6)参らせなどして、十余日^(注7)にもなりぬ。つれづれなる昼つかた、くらべやのかたを見やれば、御経教へさせたまふとて、「読みし経を、よくしたためて取らせん」とおほせられて、御おこなひのついでに二間^(注8)にて、立ちておはしまして、したためさせたまひて、局^(注9)におりたりしに、御経したためて持て参りて笑は^(注10)れんとぞおほしめして、あまりなるまでかしづかせたまひし御ことは、思ひ出でらるるに、御前におはして、「われ抱きて、障子の絵見せよ」とおほせらるれば、よろづさむ^(注11)心地すれど、朝餉^(注12)の御障子の絵、御覽せさせ歩くに、夜の大殿の壁に、明け暮れ目なれておぼえんとおぼしたりし樂^(注13)を書きて、押しつけさせたまへ^(注14)りし笛の譜^(注15)の、押さ

れたる跡の、壁にあるを見つけたるぞ、あはれなる。

笛の音の押されし壁の跡見れば過ぎにしことは夢とおほゆる

かなしくて袖を顔に押しあつるを、あやしげに御覧すれば、心得させまゐらせじと、さりげなくもてなしつつ、「あぐびをせられて、かく目に涙の浮きたる」と申せば、「みな知りて^(注16)さぶらふ」とおほせらるるに、あはれにもかたじけなくもおぼえさせたまへば、「いかに知らせたまへるぞ」と申せば、「ほ」文字の「り」文字のこと、思ひ出でたるなめり」とおほせらるるは、よく心得させたまへると思ふも、うつくしうて、あはれもさめぬる心地してぞ笑ま

(注)

- 1 御帳——貴人の寝所。「夜の御殿」も同じ。帳は寝所に使われている垂れ布。
- 2 殿——当時閑白であった藤原忠実のこと。

- 3 黒戸——清涼殿(宮中にある天皇が普段の生活を送る殿舎)の北にある廊。
- 4 御溝水——宮中の殿舎の周りを流れる溝川。
- 5 萩の戸——清涼殿の内部、寝所の北側にある部屋。
- 6 くらべや——清涼殿の近くにあったとみられる部屋。
- 7 二間——清涼殿の内部、寝所近くにある部屋。
- 8 朝餉——清涼殿の内部にあり、天皇が食事をとるための部屋。

問一 本文中の傍線部A「いはけなげにて」、C「なめげに見苦しく」の解釈として最も適当なものを、次の各群のA～Dの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号をマークせよ。(解答番号はAⅡ 23、CⅡ 24)

- | | | | |
|---|---------|---|--------------|
| A | いはけなげにて | A | 穏やかな顔つきで |
| | | I | いかにも幼い様子で |
| | | U | 言うまでもない愛らしさで |
| | | 工 | 全く不安のない寝顔で |
| | | オ | 年齢よりも殊勝な態度で |

- | | | | |
|---|----------|---|-----------------|
| C | なめげに見苦しく | A | 遠慮がちに見ることしかできなく |
|---|----------|---|-----------------|

イ 傾いているので見えづらく
 ウ 失礼な言葉が腹立たしく
 エ あまりに気の毒で見えいられず
 オ 無作法な態度でみつともなく

問二 本文中の二重傍線部①～④について、次の設問(一)～(二)に答えよ。

(一) 二重傍線部①～④の敬語の種類は何か。最も適当なものを次のア～ウの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号をマークせよ。同じものを二回以上選んでもよい。(解答番号は① ㉔、② ㉕、③ ㉖、④ ㉗)

ア 尊敬語 イ 謙譲語 ウ 丁寧語

(二) 二重傍線部①～④の敬意の対象は誰か。最も適当なものを次のア～カの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号をマークせよ。同じものを二回以上選んでもよい。(解答番号は① ㉘、② ㉙、③ ㉚、④ ㉛)

ア 堀河天皇 イ 鳥羽天皇 ウ 白河法皇 エ 関白殿 オ 作者 カ 読者

問三 本文中の傍線部B「あなかしこ、よくつつしみて、夜の御殿を出でさせたまはで、しばし」の解釈として最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号は㉜)

ア 寝室から出ずにずっと過ごされていたとは、何と恐ろしい。
 イ しばらくは静かに養生して、寝室では一人でお休みください。
 ウ 直接参上するのは恐れ多いので、寝室でそのままお待ちなさい。
 エ くれぐれも用心して、当分の間は寝室から出ずにお過ごしなさい。
 オ 人に見つからないように、少しの間でも寝室に隠れておいでなさい。

問四 本文中の傍線部D「御節句」とあるが、この節句に関わりのある植物は何か。最も適当なものを次のア～カの中から一つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号は㉝)

ア 菖蒲 イ 藤 ウ 菊 エ 撫子 オ 薄 カ 若菜

問五 本文中の傍線部①～④の語の文法的説明として最も適当なものを、次のア～カの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号をマークせよ。同じものを二回以上選んでもよい。(解答番号は① ㉞、② ㉟、③ ㊱、④ ㊲)

- ア 存続の助動詞「り」の連用形
 イ 尊敬の助動詞「る」の未然形
 ウ 受身の助動詞「る」の未然形
 エ 自発の助動詞「らる」の連用形
 オ 可能の助動詞「らる」の未然形
 カ 動詞の一部

問六 本文中で、堀河天皇はどのような人物として描かれているか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号は 37)

- ア 雅びなものを好む一方で、讃岐典侍が退席することを許さずに二人だけで長い時間を過ごすなど、時に強引さもみえる人物。
 イ 美しい花々を通じて無常さを説いたり、経を教えたりすることで、讃岐典侍を極楽浄土へ導こうとする、信仰心の厚い人物。
 ウ 体調が優れない時でも関白を呼んで政務を行う一方で、讃岐典侍との愛を貫くという、誠実さと情熱を合わせもった人物。
 エ 庭の美しさを愛したり管弦を好んだりする風流心を持ち、傍らで共に過ごす讃岐典侍の心情を理解して優

しく気遣う人物。

オ 自らに残された時間が少ないのを自覚し、経や笛といった形見を息子に伝えるようとりはからう、子供への愛情が深い人物。

問七 本文の内容に合致するものはどれか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号は 38)

- ア 幼さの目立つ鳥羽天皇を教え導く役目の難しさを痛感し、つい現実から逃避して亡き堀河天皇との思い出にふけりがちな讃岐典侍であったが、堀河天皇を悼む気持ちは同じであったことに気づき、悲しみの中にも笑顔が浮かんでくるのだった。
 イ 亡き堀河天皇を慕い、見るものにつけ堀河天皇と過ごした日々を思い出さずにはいられない讃岐典侍であったが、幼い鳥羽天皇がそんな自分の心を良く理解していたことを知り、悲しみも救われるような気がして、思わずほえんだ。
 ウ 堀河天皇がいけない宮中に戻っても、その不在を痛感するだけの讃岐典侍だったが、生い先見えて美しい鳥羽天皇の表情に亡き天皇の面影があることに気づいて悲しみが癒やされ、典侍として幼い鳥羽天皇を守り育てる決意を新たにしたりした。
 エ 鳥羽天皇の行動に振り回され、亡き堀河天皇との思い出に浸ることも充分にはできないでいた讃岐典侍

グループ1 [M41]

- ア 色覚異常は女性に比べ男性に多くみられる症状である。
- イ 色覚異常は男性に比べ女性に多くみられる症状である。
- ウ 色覚異常は男女とも同じ割合で見られる症状である。
- エ 色覚異常は女性には起こらない。
- オ 色覚異常は男性には起こらない。

グループ2 [M42]

- ア 母親が色覚異常遺伝子を持つが、色覚異常ではない場合で、父親が色覚異常でない場合、女兒に色覚異常は起こらない。
- イ 母親が色覚異常遺伝子を持つが、色覚異常ではない場合で、父親が色覚異常でない場合、男児に色覚異常は起こらない。
- ウ 母親が色覚異常遺伝子を持つが、色覚異常ではない場合で、父親が色覚異常でない場合、女兒に1/2の確率で色覚異常が起こる。
- エ 母親が色覚異常遺伝子を持つが、色覚異常ではない場合で、父親が色覚異常でない場合、女兒はすべて色覚異常となる。
- オ 母親が色覚異常遺伝子を持つが、色覚異常ではない場合で、父親が色覚異常でない場合、男児はすべて色覚異常となる。

問八

「讃岐典侍日記」と同様、女性が自らの人生を回想して著した作品としてあてはまらないものを次のア～カの
中から二つ選び、その記号を二か所マークせよ。(解答番号は39)

- ア 蜻蛉日記
- イ とはすがたり
- ウ 更級日記
- エ 夜の寝覚
- オ 土佐日記
- カ たまきはる

だったが、実はその行動が幼心にも讃岐典侍を慰めようとするものであったことを知り、けなげさといとおしさに顔をほころばせた。

オ 亡き堀河天皇の寵愛を受ける身だったことを鳥羽天皇に伝えていなかった讃岐典侍であったが、鳥羽天皇が二人の関係を理解していたと知り、そのあまりの早熟さに、両親を亡くした境遇への同情も醒め、苦笑いをせずにはいられなかった。